

## 検討の視点（案）

### 交付関係

1．サービスを計画的に利用するようになった反面、気軽に利用できなくなったとの声が多い。

\* 購入予定者の大部分が、利用予定サービスを決めている。

2．購入世帯は約4割。未就園児の多い2歳以下の6割に応援券が交付されていない。

3．出生時は交付まで3~7ヶ月かかる。

（1から3について）応援券の交付について、子どもの年齢ごとの状況等も踏まえ、無償交付と有償交付の組み合わせについて、どう考えるか。

### サービス関係

1．子どもを預かるサービス

- ・有償制転換後も、0~5歳児すべて利用が安定している。
- ・利用者から「子育てに自信やゆとりが持てた」との感想が多い

2．産後のサービス

- ・出生時の無償応援券の利用の40%が母乳育児相談。
- ・子育ての不安解消に寄与しているが、有償制になり利用を控える傾向。

3．親サポートのサービス

- ・家事援助は保育園に通園しているお子さんのいる家庭の利用が多い。
- ・サービスの見直し、有償化によりサービスの大幅な利用減が見込まれる。
- ・乳幼児親子の支援として必要なサービスかどうか、改めて見直しが必要なものがないか

ハウスクリーニングなど、サービス内容が応援券事業の目的に合致しているか。

#### 4．親子の集いサービス

- ・「地域に知り合いができた」 地域を知るきっかけとなった」との評価が高い。
- ・任意団体によるサービスの提供が一番多い。

#### 5．親子で体験するサービス

- ・有償化に伴い計画的に利用するようになり利用が大きく増えた。
- ・「地域に知り合いが増えた」とあわせて「子どもの成長がうれしい」との感想が多い。
- ・掘り起こしが進んだサービスであり、今後も、利用増が見込まれる。
- ・知り合いができ不安感・負担感の解消につながったとの声と、応援券事業の対象としては疑問との意見がある。

\*一部の親子参加サービスで、一人当たり平均利用額が大きくなっている。

#### 6．親子で鑑賞・イベント

- ・外出して親子で楽しむためのサービスとなっているが、家族同士の交流は少ない。
- ・区外の事業者が多い。

(4から6について)親子参加サービスについて、子育て家庭が地域とつながるきっかけとなるよう、

- ・利用者が特定のサービスのみを利用するのではなく、地域の様々なサービスを利用するよう促す仕組み
- ・サービスがより地域に根ざしたものとなるようにする仕組みが必要ではないか。

#### 7．インフルエンザの予防接種等

- ・子どもの健康の観点から。特例的に認められた。

インフルエンザの予防接種やデンタルサポートについて、応援券事業の目的と照らしてどう考えるか。

インフルエンザなどの予防接種については、本来、保健医療施策で行うべきものと考えます。その分野で対応されるまでの間、子供の健康という視点に立つと優先度が高く、保護者が選択できるサービスとして、応援券の対象としても良いものと考えます。(平成20年3月 これからの「杉並子育て応援券」への提案)